

第1回「教育を語り合う会」記録（概要版）

日時：令和5年7月22日（土）9時30分～11時30分

場所：真鶴町民センター3階 講堂

参加者：41名（6グループ編成）

進行：瀬瀬（教育長）

BGM：「Mana Manazuru」

（作詞；勝山千帆 作曲；MIDORI ボーカル；MIDORI）

開会

- ・進行役の自己紹介。
- ・「教育を語り合う会」は社会教育のフィールドで学校教育を語る場。休憩、水分補給は自由。
- ・記録用、広報用に写真。

アイスブレイキング（意思表示ゲーム）

- ・参加者は質問に対して、グー（そう思う）チョキ（どちらとも）パー（思わない）で答える。
- ・進行役の「せーの、ドン」の掛け声で一斉に手を挙げる。
- ・「私は、真鶴町が好きだ」…ほとんどの方がグーを挙げた。
- ・「私は、今日はいよいよ参加した」…パーが大多数であったが、グー・チョキの方々も。学校建設準備委員会の竹原委員の話。「子どもがアメリカの少年野球チームに所属。選手が三振の時『グッド・アイ!』、エラーをした時『グッド・チャレンジ!』と、監督も仲間たちもみんなが選手にそう声を掛けていた。」
- ・「私は、学校には良い思い出しかない」…三者三様の答えであった。

ワークショップ1「あなたにとっての学校は？」

- ・自分にとっての学校はどんな存在だったのか、各自付箋紙（1枚に一つの考え）に書いた。
- ・その後、付箋紙を模造紙に貼りながら、グループ内で意見交換を行った。
- ・最後に、いくつかのグループが、話し合った内容を全体に発表した。
- ・付箋紙に書かれた内容の主なものは次の通り。（カテゴリー化等は、後日事務局で行った。）

○キーワード『出会い：友だち』

- ・みんなで歌を合唱するのが楽しかった
- ・友だちと思い出をつくる場所
- ・仲間に会える場所
- ・大切な友だちに出会えた
- ・休み時間が楽しかった
- ・友だちといっぱい遊ぶところ
- ・いろいろなタイプの人と出会う

○キーワード『出会い：先生』

- ・自分を理解してくれる先生
- ・ステキな先生に出会えた場所
- ・心に響く人との出会い
- ・身近に大人を感じられるところ
- ・英語がきらいになったきっかけ

○キーワード『出会い：自分と他者』

- ・楽しく悩むところ
- ・たくさん失敗するところ
- ・自分を成長させる場所

- ・未来を夢みるところ ・協調性を学ぶところ ・社会的ルールを学ぶところ
- ・人との距離感、対処法を学ぶところ ・人とのつき合い方を学ぶところ

○キーワード『勉強・学び』

- ・勉強で新しいことがわかったとき、よかった ・新しいことを学ぶところ
- ・学び合うところ ・大人も学べるところ ・知識を得るところ
- ・勉強をする場所

○キーワード『部活・イベント・文化』

- ・部活がおもしろかったこと ・クラブ活動での思い出
- ・文化やスポーツをするところ ・体をたくさん動かせるところ

○キーワード『給食』

- ・給食が楽しみ ・おいしい給食を食べられるところ
- ・だれかと一緒に食事ができるところ

○キーワード『プラスイメージ』

- ・目が覚めたら早く行きたくなる場所 ・楽しいところ ・たくさん笑ったところ
- ・家の中とは違う自分になれるところ ・家庭とは違うコミュニティ
- ・自分のもう一つの家のように ・いろいろな知識を教えてもらうのが楽しかった

○キーワード『マイナスイメージ』

- ・テストなど成績順に貼り紙されるのは嫌だった ・校則が厳しいところ
- ・勉強が大変だった ・不思議なルールがあるところ ・テストが多いところ
- ・怒られるところ ・苦手な人がいる ・落ち込むこともある

○その他

- ・家とは違う緊張感をもつところ

今までの経緯の説明

a : 「学校施設個別施設（長寿命化）計画」（令和3年3月）

- ・ひなづる幼稚園、まなづる小学校、真鶴中学校共に長寿命化に適さない。
- ・2030年代半ば（小）、後半（幼中）に更新時期を迎える。

b : 「中学校給食実施計画調査報告書」（令和3年9月）

- ・概算整備費（初期投資）

自校方式	405,213千円
センター方式	884,171千円
親子方式	236,355千円

c : 「学校教育あり方検討会」（令和4年7月報告書）

- ・一貫教育を一層推進する。
- ・校舎建て替えを優先。給食開始はそれに合わせて検討する。
- ・交流と多様性をキーワードとした一貫教育校が相応しい。
- ・校舎の形態は今後検討する。

d : 「新たな学校づくり庁内検討委員会」（令和4年10月立ち上げ）

- ・財源（例）

建設費30億円	16.5億円（国庫補助5.5/10）
	13.5億円（学校教育施設等整備事業債と過疎債で充当）
	うち7割（9.45億円）が交付税として歳入される
	3割（4.05億円）が一般財源として必要

・敷地面積

まなづる小学校	13,681.54㎡
真鶴中学校	15,278.91㎡
町立体育館	3,003.25㎡

・高さ制限

まなづる小学校	12m（4階）
真鶴中学校	10m（3階）

e：「学校建設準備委員会」（令和5年6月立ち上げ）

・第1回テーマ「未来の学校への夢を語ろう！」

- 学校を地域のコミュニティの場にしたい。
- 子どもがわくわくするような学校にしたい。
- 地域の人たちと双方向の学びができると良い。
- 郷土愛を育む一貫教育校を行って欲しい。
- 社会の変化に対応できる学校を作って欲しい。
- 高校生・大学生のサポートもできると良い。

f：今後の主なスケジュール（予定）

- ・令和6年度末 「基本計画」策定
- ・令和7年度～ 「基本設計」
- ・令和8年度～ 「実施設計」
- ・令和9年度～ 新校舎建設開始
- ・令和11年度末 新校舎完成
- ・令和12年4月 一貫教育校スタート！

「教育を語り合う会」の趣旨等説明

○趣旨

- ・後世に誇れるような、素晴らしい学校を町民みんなで創りたい！
- ・一貫教育校の意義について共通理解を図りたい！

○気をつけたいこと

- ・この場は何かを決定する場ではなく、みんなで考える場であること。
- ・相手に何かを求めたり、責めたりする場ではなく、自分なら何ができるかを考える場であること。

アイスブレーキング（トントンすりすり）

- ・右手をグーにして右足ももをトントン、左手をパーにして左足ももをすりすり。
- ・今度は同時にトントンすりすり。
- ・次は逆に左手でトントン、右手ですりすり。
- ・最後は、目の前でトントンすりすり。
- ・軽い運動だが、簡単そうに見えて難しいことは世の中にたくさんあることに気づく。

ワークショップ2「どんな学校を未来の子どもたちに？」

- ・どんな学校を未来の子どもたちに贈りたいのか、各自付箋紙（1枚に一つの考え）に書いた。
- ・その後、付箋紙を模造紙に貼りながら、グループ内で意見交換を行った。
- ・最後に、いくつかのグループが、話し合った内容を全体に発表した。

・付箋紙に書かれた内容の主なものは次の通り。(カテゴリー化等は、後日事務局で行った。)

○キーワード『自分らしく』

- ・楽しい、行きたいと思える学校
- ・自分らしくいられる場
- ・子どもたちそれぞれの個性を生かせる場所
- ・どの子どもにも居場所になる学校
- ・安心できる居場所
- ・自分のことを認めてくれる学校
- ・心が通いあう

○キーワード『地域・コミュニティ』

- ・おじちゃん、おばちゃんの知識・知恵を子どもたちに伝承していく
- ・大人の居場所にもなる学校
- ・町の中心になる学校
- ・子どもだけでなく大人も行きたくなる学校
- ・人とのつながりが生まれる学校
- ・子どもだけでなく大人も学べる
- ・地域とのつながりを大切に
- ・大人と子どもが関われる場

○キーワード『校舎・校庭・施設』

- ・バリアフリー、段差なし、エレベーター
- ・自然光が入るぬくもりのある校舎
- ・人が集まる図書室
- ・フリースペースがある
- ・木の香りのある学校
- ・廊下と教室の壁がない学校、オープンスペース
- ・使いやすくきれいなトイレ
- ・エネルギー自給できる学校
- ・他者とふれあえる場所
- ・卒業しても利用したくなる、行きたくなる学校
- ・自分たち(子どもたち)も建設に関わったと思える学校

○キーワード『真鶴らしさ』

- ・真鶴らしさ、豊かな自然を感じられる
- ・地場産品を活用
- ・真鶴のお林、海などの自然環境を活かした教育
- ・真鶴の歴史・文化・芸能を体験できる
- ・町の伝統を学び伝える

○キーワード『学校のカリキュラム』

- ・クラス・学年の枠にとらわれず関わることができる学校
- ・卒業生と交流できる
- ・「好き」を大切に
- ・チャレンジとリトライ
- ・動物がいる学校、畑がある学校(地域の人々がつながる装置として)
- ・プログラミングなど最先端なことを学べる場所
- ・英語教育に力を入れている
- ・地域人材が生かされる
- ・多様な学びを確保できる人材
- ・子どもを型にはめない、持っているものを自由に伸ばせるよう支援してくれる学校
- ・子どもたちが自主的にやりたいことができる学校
- ・基礎のサポート⇔発展的学習の推奨

○キーワード『防犯・防災・安全』

- ・コミュニティバスを増やす
- ・防災を考える学校にしてほしい
- ・安心・安全な学校
- ・防犯関係を考えた校舎づくり
- ・地域の人たちなどが自由に出入りできる安全なところ

○キーワード『教職員の働く環境』

- ・ICT
- ・先生の仕事を少しでも減らし、子どものことを考える時間を作ってほしい
- ・先生が働きやすく、子どもと関わるができる

○キーワード『給食』

- ・地域に開かれたカフェテリア
- ・カフェテリア式の昼食
- ・給食がみんなの食堂になりますように
- ・給食がおいしい学校

○その他

- ・教育にもっとお金をかけて欲しい

閉会

- ・真鶴町の子どもたちのために、後世に誇れるような、そして全国に誇れるような、素晴らしい一貫教育校を、真鶴町民みんなの力で創りたい。
- ・付箋紙に書かれた内容は、まとめてHPや広報真鶴で報告したい。その中のいくつかは、準備委員会の中でも取り上げていきたい。
- ・模造紙はしばらく貼り出しておくので、他のグループも参考に見て欲しい。
- ・次回は、11月18日（土）9時30分から。テーマは、「真鶴町の教育の強みって何だろう？」と「一貫教育校に望むことは？不安なことは？」を考えている。

○振り返りアンケート（主な感想は次の通り）

大変良かった 26名 よかった 6名 ふつう 3名 よくなかった 0

- ・素敵なワークショップでした。自分が考えてないこと、共有できるものがあった、とても有意義でした。知り合いを誘って、次回も参加したいです。
- ・グループの方とたくさんお話ししながら、考えを深めることができました。前向きな会で、とても楽しかったです！良い学校ができる！と感じました。
- ・とても楽しい会でした。皆さんと夢を語れて良かった。皆さんが明るい楽しい顔で話をされていて、印象的でした。又、来ます。
- ・真鶴町の未来、新しい学校などについて、いろいろな方々とワイワイ語り合うことができよかったです。参加する前は、ちょっと暗い気持ちでしたが、語り合っているときはワクワクに変わっていました。このような会を、ぜひ積み重ねていきたいです。
- ・多くの皆さんの参加があり、それぞれの思いを話すことで楽しかった。回を重ねるごとに、素晴らしい学校が出来上っていくと思う。
- ・真鶴の将来に向けた、有意義な時間を過ごすことができました。子どもたちと大人たちが、一緒に学ぶことができる学校ができると良いなと思います。
- ・普段お話しすることのない町の方と交流できて、有意義な時間を過ごせました。子どもたちは町の宝です。その子どもたちが豊かな心を持った人間に成長できるような、素敵な学校づくりを、これからも町のみなさんと一緒に考えていきたいです。
- ・すべての参加者の考え・意見を発表できる運営が良かった。真剣かつ素直に言える会を続けてほしい。
- ・保護者だけでなく、町全体で学校を考えていくということが、よりよい学校になっていくのだと考えさせられました。様々な視点から意見を交わせたので、充実した内容になり、とても良かったです。
- ・様々な立場、世代の人たちが「町の学校」を中心に、前向きな話し合いができたことが大変よかったです。町の人たちの前向きな思いがたくさん詰まった学校ができたら素敵だと思いました。
- ・いろいろな思いの方、世代の方と話し合いができてよかったです。新しい学校づくりに参加させていただいて、わくわくした気持ちになりました。素敵な学校をつくっていききたいですね。
- ・真鶴町の教育を、前向きに考えている方が多いということがわかった。様々な世代の方のお話が聞けて、視野と考えが広がった。新しい学校を創るにあたって、この会の意見や話が活かされることを期待したい。地域の人が行う授業は、すぐにでも実践できる気がいたしました。

- ・今までお話をしたことがなかった方々と、じっくりとお話できて、とても充実した2時間でした。子どもたちにとって、大切な居場所になる学校ができるように、少しでも協力していけたらと思います。教育長さんのお話も、とても良かったです。
- ・心と心のつながりを大切に！
- ・ディスカッションの仕組みがよく練られており、前向きな意見の吸い上げがしやすかった。もう少し若い世代にも来てほしかった。
- ・多様な価値観、多様な人種が生きる社会において、一つの方向性に絞ることは難しそうだが、その前段階として、様々な立場・視点から語り合うことの良さがあった機会となりました。
- ・班ごとのフリートークは、良い機会でした。教員ではない住民の生の声が聞けるこのような会は、もっともっと今後必要となるでしょう。自治会でも、同テーマで語り合う会を開いてみてはいかがでしょうか？と思いました。